

3 3年連続で上昇した消費者物価

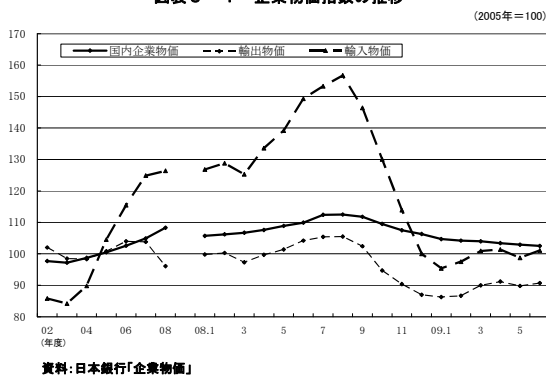
2008年度の企業物価（全国）は、5年連続で上昇を続け、消費者物価（名古屋市）は、06年度に8年ぶりに上昇に転じた後、07、08年度と引き続き上昇し、3年連続で上昇した。

（5年連続で上昇した企業物価）

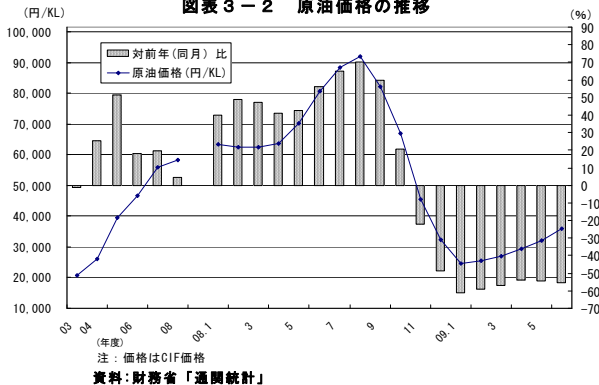
企業物価の動きを全国で見ると、2008年度の国内企業物価指数は、05年を100として108.3となった。国内企業物価は、98年度から6年連続で下落していたが、04年度に対前年度1.5%と上昇に転じ、05年度1.8%、06年度2.1%、07年度2.2%、08年度3.2%と次第に上昇率を高めながら、5年連続の上昇となった。

輸出物価指数は、08年度は96.1となり、2年連続で下落した。下げ幅も07年度△0.2%に対し、△7.4%と大幅なものとなった。

図表3-1 企業物価指数の推移



図表3-2 原油価格の推移



輸入物価指数は04年度から上昇に転じ、5年連続で上昇した。しかしその上げ幅は、05年度16.4%、

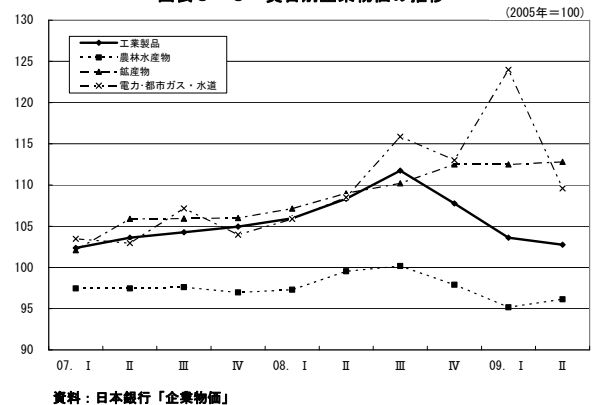
06年度10.7%、07年度8.1%、08年度1.2%と次第に縮まっている。上昇が続いているのは、資源関連や原油価格などが上昇したためである。08年度の原油価格（日本到着、円ベース）は、4.3%の上昇となり、以前に比べて上昇率は落ちついた。月別では08年9月から急落したが、09年2月から再び上昇に転じた（図表3-1、3-2）。

（原材料費の高騰を受けた電力・都市ガス・水道等）

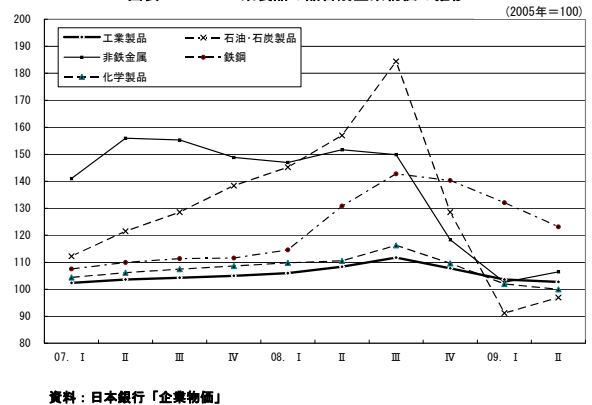
国内企業物価を費目別に四半期別で見ると、工業製品、農林水産物は2008年度後半より下落に転じた。電力・都市ガス・水道は09年に入り急騰したが、再び下落した。鉱産物は、緩やかに上昇している。

工業製品を品目別に四半期別にみると、石油・石炭製品、非鉄金属は08年後半に入り大きく落ち込んだが、09年度に入り多少上昇した。鉄鋼は08年度後半から緩やかに低下している（図表3-3、3-4）。

図表3-3 費目別企業物価の推移



図表3-4 工業製品の品目別企業物価の推移



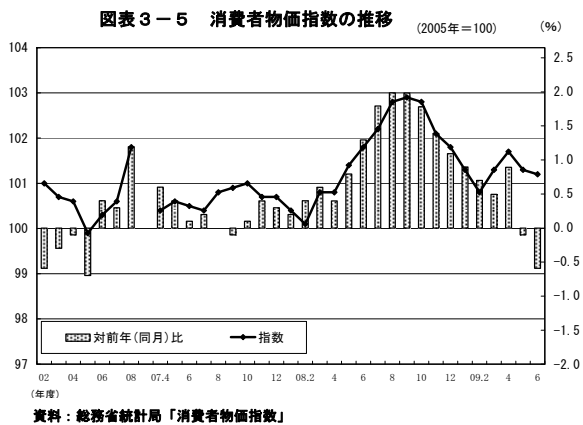
(3年連続で上昇した消費者物価)

消費者物価の動向を名古屋市消費者物価指数の動きでみると、2008年度の総合物価指数は、05年を100として101.8となった。これは、前年度に比べて1.2%の上昇で、06年度から3年連続の上昇となった。

00年度以降の指数の動きをみると、耐久消費財や食料工業製品などの工業製品の値下がりにより対前年度比で01年度は△1.0%、02年度△0.6%、03年度△0.3%、04年度△0.1%と徐々に下落率は鈍化した。05年度には耐久消費財、米類、生鮮野菜、固定電話通信料の値下がりなどにより、△0.7%と再び下落率が高まった。

06年度に入り、引き続き石油製品が値上がりしたことに加え、天候不順による生鮮野菜の値上がり、たばこ税引き上げの影響などにより0.4%上昇し、8年ぶりの上昇となり、07年度、08年度は石油製品、生鮮野菜の値上がりなどによりそれぞれ0.3%、1.2%の上昇となった。

月別にみると、08年に入ってから08年夏頃まで対前年同月比の上昇幅が拡大したが、年度後半から上昇幅が低下し、09年度に入り、逆に下落に転じた(図表3-5)。



(石油価格の影響で大きく上昇した光熱・水道)

10大費目指数の動きをみると、2008年度に食料は生鮮野菜の値上がりなどにより対前年度比3.0%上昇、光熱・水道は、灯油の値上がり等により同5.1%上昇、その他では諸雑費同1.1%上昇、教育同0.5%上昇、被服及び履物同0.3%上昇、家事・家具用品同

0.2%上昇、住居同0.1%上昇、交通通信同0.1%上昇となった。一方、下落したものは保健医療用品・器具等の値下がりにより保健医療が同1.1%下落、教養娯楽同0.3%下落となった。

石油関連で、レギュラーガソリンの価格は、1リットル当たりほぼ100円だったものが、04年から上昇を始め、08年度後半には180円近くになった。4年ではほぼ1.8倍となったがそのうち、8月をピークに価格は急落したが、再び上昇傾向を示している(図表3-6、7)。

図表3-6 費目別消費者物価指数の推移

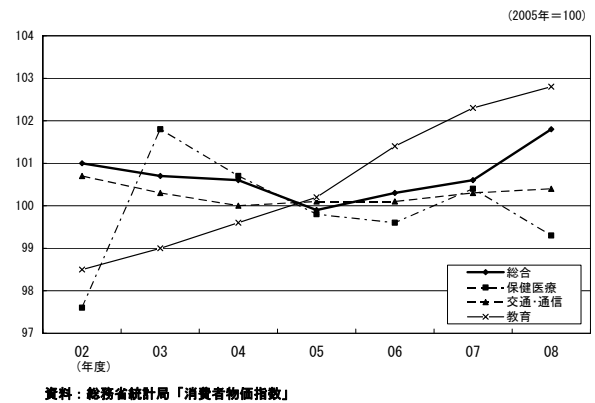
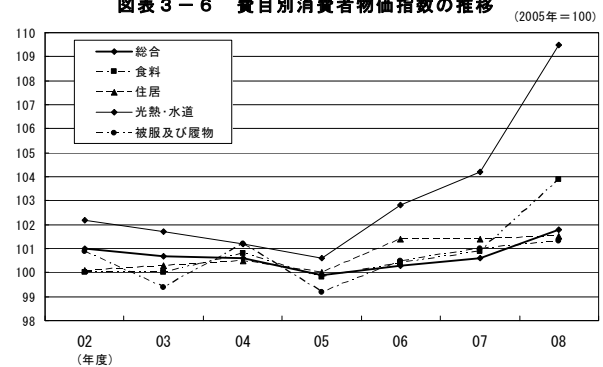
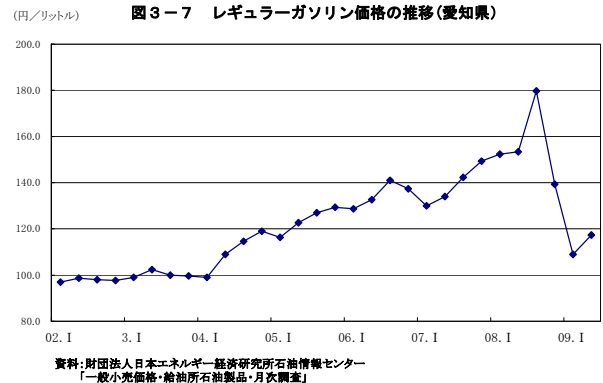


図3-7 レギュラーガソリン価格の推移(愛知県)



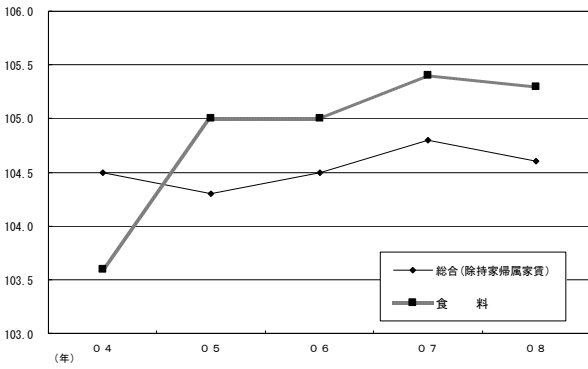
(全国との物価水準の格差)

全国との物価の水準の違いを、消費者物価指数の地域差指数でみると、名古屋市は全国より概ね4～5%高い物価水準で推移している。

食料品は、3～4%程度高かったものが、05年以降上昇し、全国より5%程度高い水準となっている(図表3-8)。

図表3-8 消費者物価地域差指数の推移

(全国=100とした時の名古屋市の指数)



資料：総務省統計局「消費者物価指数」

(値上がりした燃料価格、値下がりした教養娯楽用耐久財)

個々に品目別ではどのようなものが値上がり、値下がりしたかを2008年の全国の品目別価格指数(帰属家賃を除いたうち、05年と比較可能な578品目)により05年(=100)と対比した指数でみる。

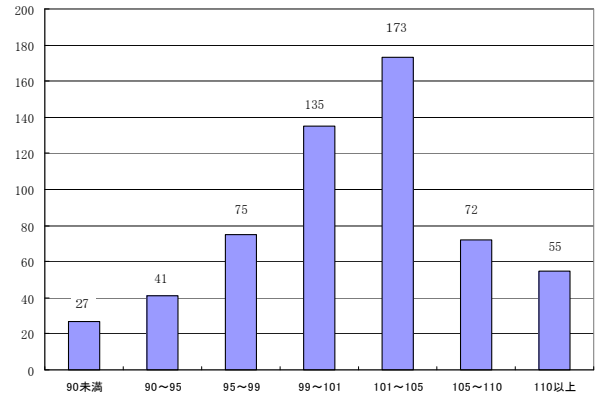
05年に比べて上昇した(08年の指数が100を超えた)ものは358品目、変化がない(08年の指数が100)ものは22品目、下落した(08年の指数が100未満)ものは198品目となった。08年の総合指数は101.7と05年に比べ上昇したが、総合指数以上に上昇したものは、261品目、同じものは4品目、上昇しなかったものは313品目であった。

個別の品目でいうと、指数が120以上(20%以上上昇)のものは、灯油、自動車バッテリー、ガソリンなど石油関連、エネルギー関連とチーズ、さといも、レモン、うなぎかば焼き、スパゲッティ等食料品関連のものとなっている。指数が80未満(20%以上下落)のものは、パソコン(ノート型)、カメラ、テレビ(薄型)、パソコン用プリンタ、パソコン(デスクトップ型)、ビデオカメラ、DVDレコーダー、ス

テレオセット、電気冷蔵庫、電子レンジ、電気洗濯機(全自動)、カーナビゲーションと品目別では家具・家事用品、教養娯楽に分類される電子機器、家電製品関連となっている。

これを10大費目別にみると、指数110以上(10%以上上昇)の品目数の構成比が全体より多いものは、燃料価格高騰による光熱水道及び食品で、逆に90未満(10%以上下落)の構成比の多いものは電気製品等の値下がりによる家具・家事用品、教養娯楽、電話機通信料の値下がりによる交通通信となっている。

図表3-9 578品目の2008年指数の大きさ別分布(全国)



資料：総務省統計局「消費者物価指数」
注：「95～99」は、「95以上99未満」を示す。

図表3-10 大きく上昇、下落した品目(全国)

2005年=100

上 昇		下 落	
品目名	2008年の指数	品目名	2008年の指数
灯油	163.7	パソコン(ノート型)	35.2
指輪	141.7	カメラ	38.2
自動車バッテリー	139.6	テレビ(薄型)	46.1
チーズ	137.1	パソコン用プリンタ	47.8
さといも	135.3	パソコン(デスクトップ型)	52.9
レモン	130.4	ビデオカメラ	57.0
ガソリン	125.5	DVDレコーダー	57.1
うなぎかば焼き	124.3	ステレオセット	68.9
外国バック旅行	123.7	電気冷蔵庫	70.0
スパゲッティ	123.2	電子レンジ	72.7
冷凍調理コロッケ	120.4	電気洗濯機(全自動)	73.3
たい	120.1	カーナビゲーション	76.4

*2005年に比べて、2008年の指数が20%以上上昇、下落した品目名
資料：総務省統計局「消費者物価指数」